

で、たゞ滅罪生善の法どもをおこなはせ、念佛のこゑをたえずきかばやとの給はすれど、それはつゆ此殿ばらきこしめしいれず、いかでとくほいとげてんどの給はするを、大宮なほいましやし春宮の御よをまたせ給べくきこえさせ給を、心うくあひおぼしめさぬ也けりと恨申させ給へば、いかにくとのみ覺しなげかせ給御物のけどもいとおぼろくまう申すもれいの事なり、おほやけわたくしのだいじ、たゞいま是よりほかはなに事かはと見えたり、略中どの、御前さらにはいのちをしうも侍らず、さきく世をまつりごち給人々おほかる中に、おのればかりさるべき事どもまたるためしはなくなん、内東宮おはします、三所の后院の女御おはす、たゞい内大臣通頼にて攝政つかまつる、又大納言通教にて左大將かけたり、又大納言宗頼あるは左衛門督信能にて別當かけたり、五をの家長の位ぞいとあさけれど、三位中將にてはべり、みなこれつぎくおほやけの御うしろみつかうまつるに、略中ことなるなむなくてすぎ侍ぬ、おのが先祖の貞信公平忠いみじうおはしたる人、我太政大臣にて、太郎小野宮の左大臣頼實二郎九條師輔の右大臣、四郎氏師五郎尹師などは大納言にてさしならび給へりけれど、后たち給はずなり、にけり、ちかうは九條のおと輔師わが御身は右大臣にてやみ給へれど、おほ后上師安子村の御はらの冷泉院圓融院さしつゞきおはします、十二人のをのこのの中に、五人太政大臣になり給へり、いまにいみじき御さいはひなりかし、されば后三ところたち給へるためしは、この國にはまたなき事也なぞ、よにめでたき御ありさまをいひつゞかせ給、ことし五十四なり、まぬどもさらにはちあるまじ、いまゆくすゑもかばかりの事はありがたくや、あらん、あかぬ事は尙侍子嬪東宮にたてまつり、皇太后宮の一品宮禎後朱雀后の御事、このふたことをせずなりぬることあれど、大宮おはしますし、攝政のおといますかれば、ざりともとま給事ありなんといひつづけさせ給、宮々殿ばらせきとめがたうおぼされ、僧俗もなみだといめがたし、うへ道長子はさ